

はじめに

株式会社エムワン アカネ薬局箕面稲店 潮田 翔

ITの発達、メディアの多様化により大量の情報が溢れだしている現代社会。医療の場に於いても、患者様自らが、それら情報源からの知識を得る機会はいくらもあるだろう。

しかし、求める情報が簡単に手に入る一方、膨大な情報の中には誤ったものも存在しており、患者様が自分に合った情報か否かを適切に判断することは難しい。

このような時代に、薬局は十分な役割を果たしていると言えるだろうか。

目的

薬剤師は処方せんを応需、調剤し、投薬する。その投薬の際、行われるのが服薬指導であるが、薬剤師は患者様のニーズを正確に把握し、適切な指導をしているだろうか。決まった形式に捉われず「患者様が正しい情報を正しく活用して治療を行う」手助けをしているだろうか。

薬局窓口でお薬を手渡すことだけで、満足してはいないだろうか。

各年代別に情報を得る手段・求めている情報を調査することで『薬局の本当の役割』を考える。

方法

複数の店舗に於いて、来局された患者様を対象に、無作為にアンケート調査を実施した。

調査項目は

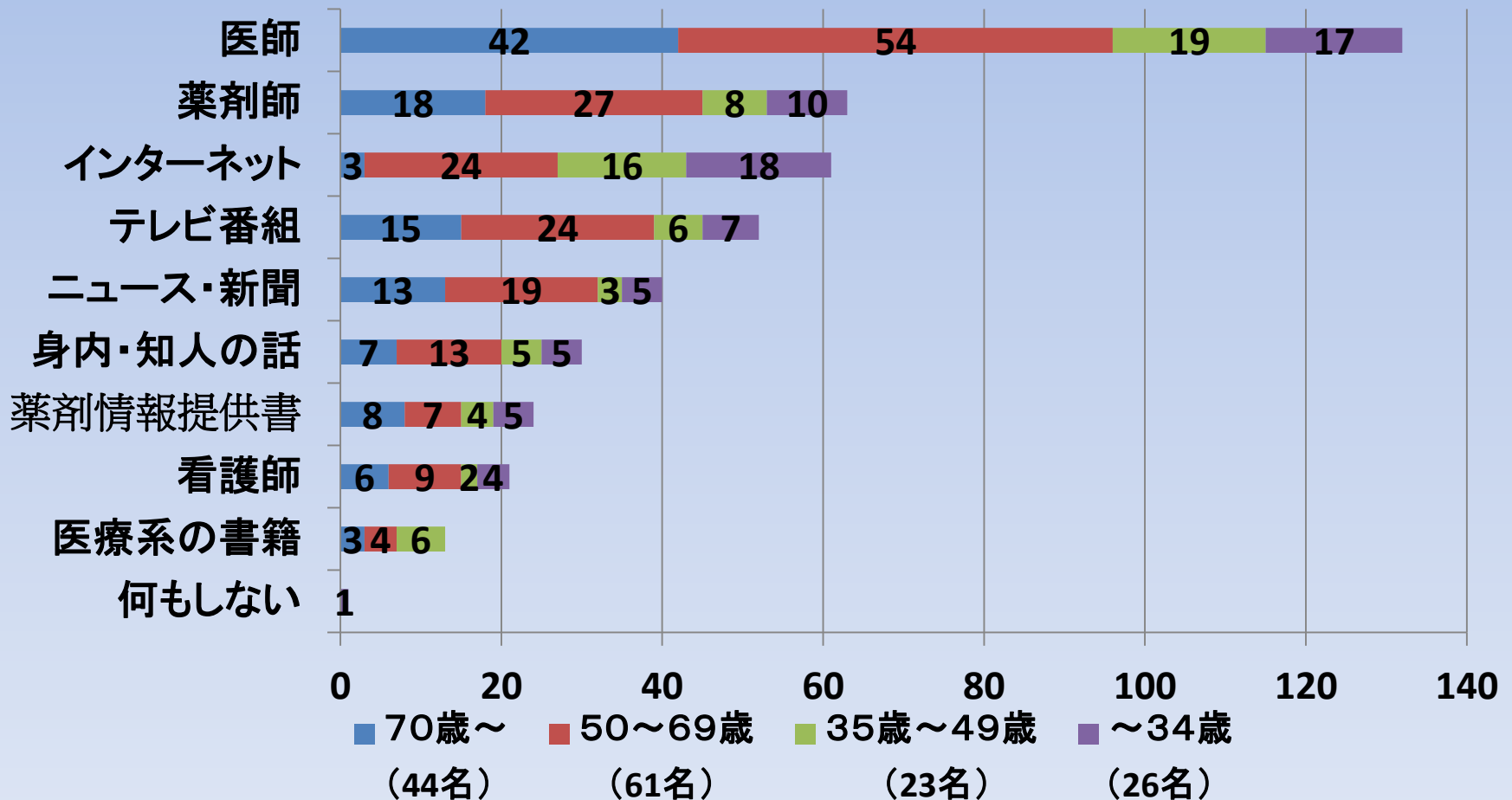
- ① 普段の医療情報入手手段
- ② 薬局で提供を期待する情報(副作用、ジェネリック医薬品について等)
- ③ 薬局に期待する情報提供ツール・サービス

※以下、結果・考察では①、②、③とのみ表記する

各項目すべて複数回答可で、回答者(全154名)の何人がチェックを入れたかを集計。患者様の年齢により4つのグループに分類し、その傾向を探った。

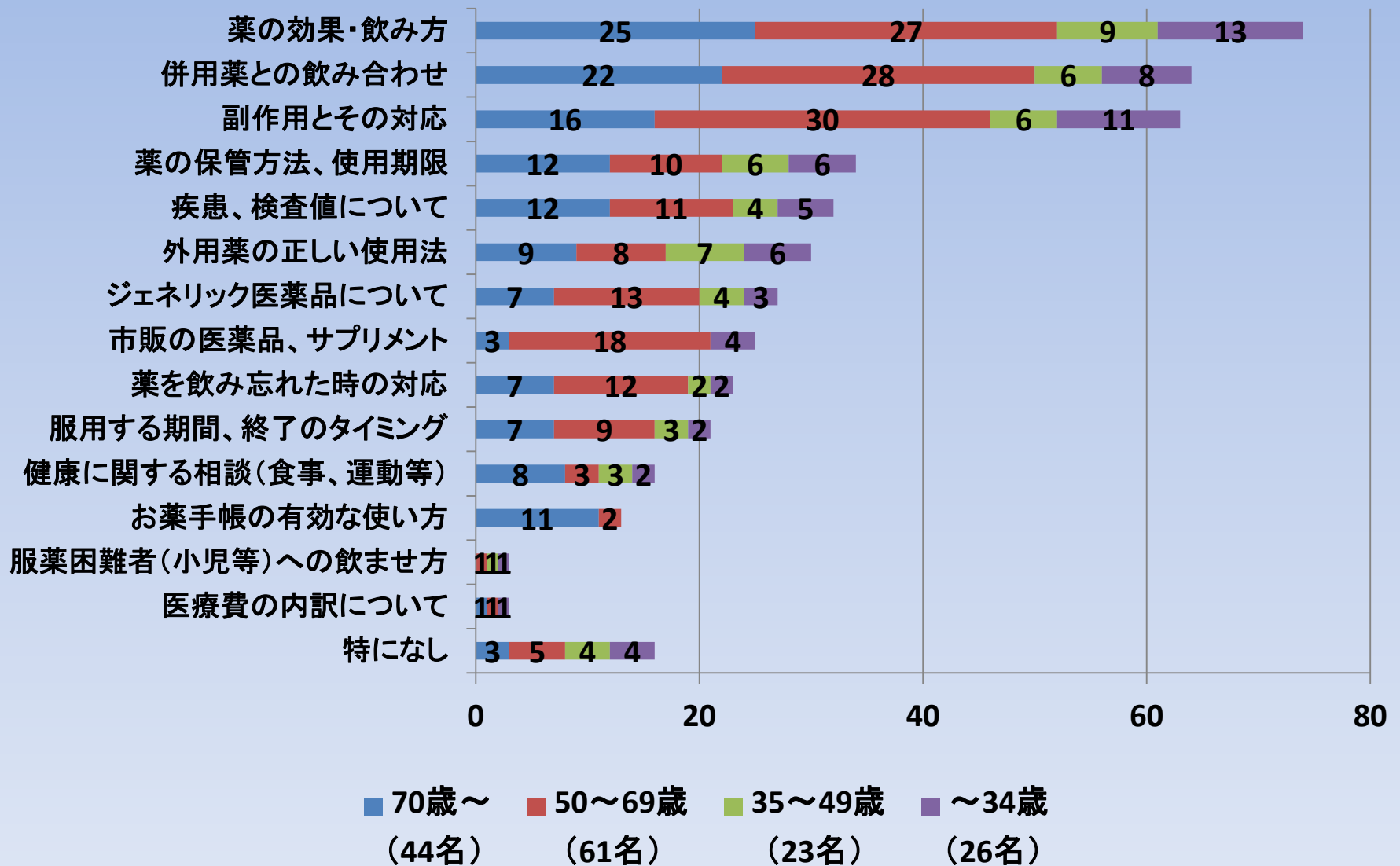
結果

① 普段の医療情報入手手段

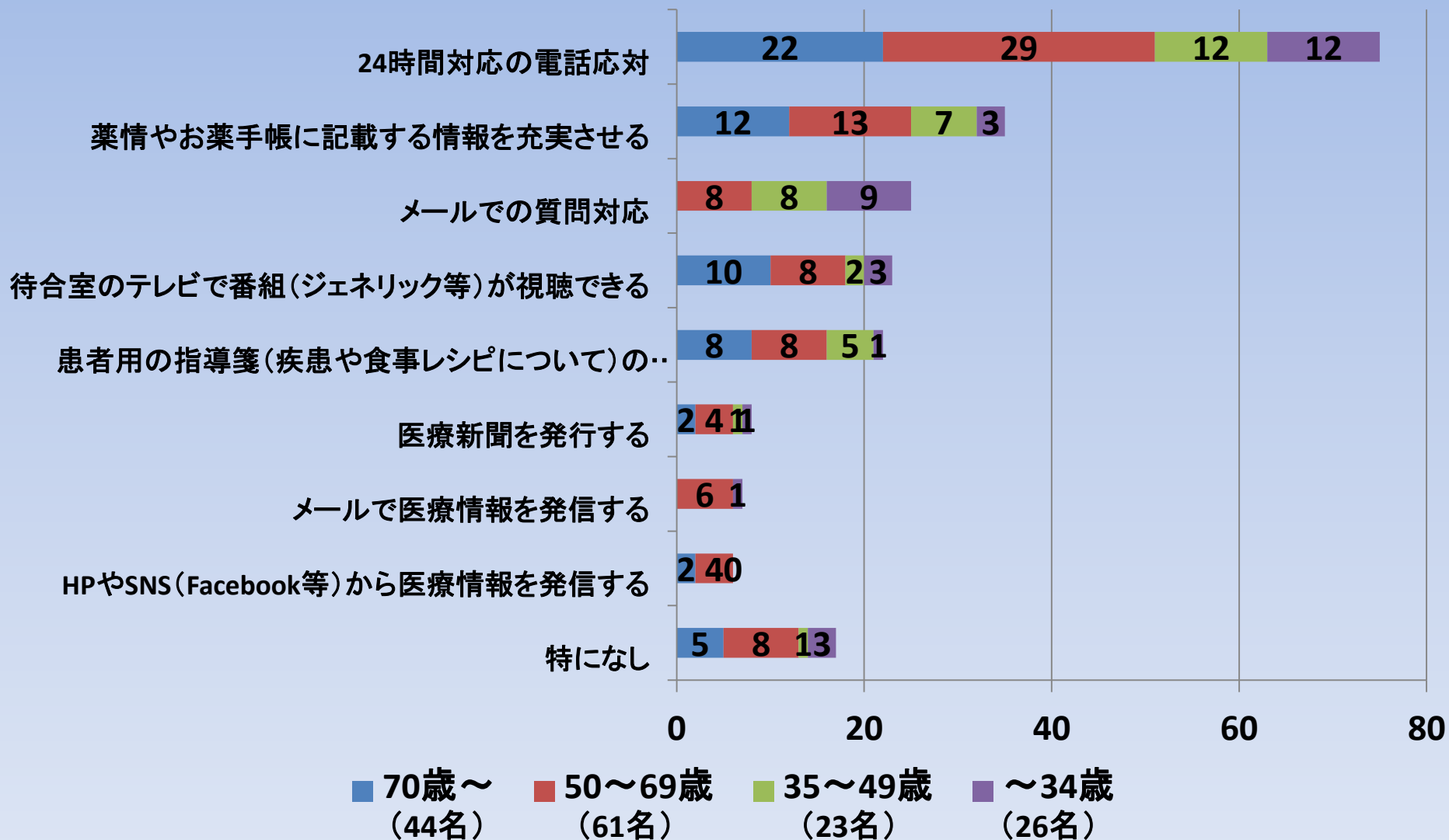


※()内の数字は回答人数

②薬局にて提供を期待する情報



③薬局に期待する情報提供ツール・サービス



①

- 患者様の情報源としては医師が圧倒的に多く、薬剤師はその半数だった。
- 情報源をインターネットとする回答は若年層で特に多く、全年代併せると薬剤師とほぼ同等だった。
- 高齢層ではニュースやテレビなど、インターネット以外のメディアから情報を得るという回答も多かった。

②

- 年代による差はあまりなく、薬局の業務として広く認知されているものが上位三項目を占めた。
- 疾患や検査値に関する説明を、薬局に期待される患者様も多かった。(特に高齢患者様)

③

- どの年代からも、電話やメールによる24時間体制の相談対応を求められている。

考察

- ①患者様が情報源としているのは医師という回答が圧倒的に多く、次いで薬剤師であった。しかしながら、情報源をインターネットとする回答は若年層で特に多く、全年代併せると薬剤師とほぼ同等である。また、高齢層ではニュースやテレビなど、インターネット以外のメディアから情報を得るという回答も多い。情報源としての薬剤師は、まだ十分に活用されていないと考えられる。
- ②薬局の業務として広く認知されている基本的な薬の効果・飲み方や副作用の説明を求める回答の他に、併用薬やサプリメントについての相談、あるいは疾患・検査値の説明を薬局で受けたいという回答もあり、薬剤師が患者様の相談相手として期待されている事が窺がえる。
- ③多くの患者様が薬局に電話あるいはメールでの24時間体制の相談対応を希望しており、薬局は気軽に相談できる身近な存在として求められていると考えられる。

まとめ

様々な情報が行き交う現代社会において、医療の場でもインターネットやメディアから情報を得る機会が多い。患者様が適切な医療を受けられるよう、私達薬剤師は情報収集の先回りをし、患者様の知識の修正に努める必要がある。

薬局は、患者様から身近な相談相手としての役割を期待されているが、実際にはまだまだ十分には活用されていないのが現状である。

今後の課題として、薬局は「薬をもらう所」から脱却し、患者様により適切な情報提供を行うための情報源とならなくてはならない。さらに24時間連絡が取れる体制は必須であり、患者様がいつでも相談したいと思える場所にしていかなければならない。

情報化社会であるが故、簡単に手に入れることのできる膨大な情報を精査すること、他方、人の力でしか集めることのできない患者様自身の生の声を一つ一つ集めること、その「情報」という言葉をキーワードに、これからも患者様に寄り添い、私達薬剤師は安心を共に担う役割でありたい。

アカネ薬局箕面稲店の取り組み



「めでいちゃん」= **Medical Media Channel**

地域の医療機関・薬局をネットワークで結ぶデジタルサイネージ(高品質映像上映システム)メディア。
疾患についての解説やお薬手帳の活用法などを放送しています。